

SASEBO

編集後記

9月初旬、自分から提案したにも関わらず、「命」というテーマの大きさに、今までにないプレッシャーを感じていました。ちょうどそのころ、友人の愛犬が出産。庭の片隅で泥だらけでいきている母犬、透明の膜に包まれて出てくる子犬を見て、背中を押されたような気になり、やっと本格始動できました。今回、特集本文に書ききれなかったことが一つあります。それはペットの命。昨年度保健所で処分された犬と猫は、合わせて1485匹もいます。どうぞ、ペットを飼うときは、その一生に責任を持ってかわいがってあげてください。写真を提供していただいたご家族と、撮影に協力していただいたお店の方にも心から感謝します。ありがとうございました。(N)

元気な朝ごはんレシピ 一般部門アイデア賞 簡単ミニPIZZA



冷蔵庫にある食材で簡単に
おいしく出来上がります。

●考えていただいた人
差形なつ美さん
(佐世保北高等学校1年・当時)

材料・4人分

餃子の皮	40枚
ホウレン草	1/2束
シーチキン	1缶
ハム	2枚
ウインナー	6本
玉ネギ	1/2個
ケチャップ	大さじ4
マヨネーズ	大さじ4
とろけるチーズ	4枚

作り方

- ①ホウレン草はゆでて水気を絞り、2cm幅に切る。ハムは千切り、ウインナーは輪切り、玉ネギは薄くスライスする。
- ②餃子の皮を水で濡らして2枚をくっつける。
- ③②の上にケチャップ、マヨネーズを塗り①とシーチキンをのせる。
- ④③にチーズをのせてオーブンレンジで5分焼く。

●1人分の栄養価
熱量489kcal、たんぱく質20.2g、
脂質25.2g、塩分2.3g

市長日記

「キトラス」に お立ち寄りください



去る10月2日、佐世保・雲仙・長崎3市の共同によるアンテナショップ「キトラス」が福岡市博多区(博多座前、地下鉄・中州川端駅5番出口)にグランドオープンしました。3市には豊富な食材や料理、魅力あふれる人やまち、歴史や文化、自然景観や観光スポットなど、素晴らしいものがたくさんあります。

今や福岡・佐世保間の移動時間は2時間弱。さらに福岡市には長崎県の総人口と同じくらいの約145万人(福岡周辺都市人口では約230万人)の方が住んでおられます。しかし、佐世保市の地名は知っていても、行ったことがない、ましてや佐世保の美味しいものは知らない、食べたこともない方がたくさんおられます。

またふるさとが佐世保なんだけど、福岡では佐世保のものがなかなか手に入らない、情報がないと思っておられる方もいらっしゃると思います。そのような方々に、佐世保の旬の美味しいものや、観光、イベントなどの情報を発信し、これまであまり知られていなかったものを



オープニングセレモニーで佐世保の焼酎をPRしながらあいさつする朝長市長

含めて新しい発見をしていただきたいという思いで、2市と共同(佐世保市だけでは商品が十分でない、財政的にも負担が大きい)で出店いたしました。

見て、触れて、味わって。「キトラス」には3市の「うまかもん」が盛りだくさんです。佐世保市民の皆さまも福岡にお出掛けの際にはぜひお立ち寄りください。そして福岡にお住まいのご家族、親戚、友人、知人の方々にも、このようなアンテナショップができたことをご紹介いただければと思います。応援よろしくお願いたします。

佐世保市長 朝長 則男



斜面もかんがいできるよつにしました。江戸時代後期の享和(一八〇一〜二二)年間、平戸藩は里美の開拓のため郷美谷池を築造しました。この水源から焼山池に用水路の井手を作って流し、宇土越の南では樋渡しによって峠の南

ながんがい用水が確保できません。里美町から東の心野町に通じる昔の峠道は宇土越と呼ばれています。峠道の真ん中、地上から三メートルほどの中空を一本の鉄管が渡っています。地元の人たちは「峠の鉄管」と呼んでいますが、里美町の高部田畑に水を送るかんがい用として昔から利用されてきた「樋渡し」の役目を果たしているのです。

佐世保市の水道の最も大きな水源が川谷貯水池(貯水量一六二万トン)で、里美町はここから東の山あいには広がっています。相浦川の最上流部で、小川は流れていますが、宇土越に近い高部は十分ながんがい用水が確保できません。

歴史 散歩 第544回

宇土越の樋渡し・里美町

撮影・文・筒井隆義

山里の作物を育てるかんがい用水は、利用者七軒に平等に行き渡るよう切間を設け、湯水期には平等に水利できるよう、見張りを立てて水を守っていました。

明治二十九(一八九六)年生まれの高部直助さんは、小川を渡る土橋など、里美町一円の大工仕事はほとんど一手に引き受けていました。子どものころタケさんは、用材を加工しながら、口の中で寸法をフツフツとつぶやいて計算する父親の、熱心な仕事ぶりを記憶しています。

樋渡しの近くに住む久野タケさん(八十六歳)は、私の実家の父宮崎直助は大工で、昭和の初めまで大木を削り抜き、木組み細工で樋渡しを作っていました。また谷川の水車を組み立てて米つきをしたり、姫宮神社の社殿も建てましたと話されました。



子ども子育て応援センターから「子どもの虐待SOS」の話

子ども子育て応援センターは、市民の皆さんから子どもに関する相談を受ける身近な窓口です。福祉、保健、心理、教育などの専門の相談員が皆さんと一緒に解決方法などを考え、子どもからの相談も受け付けています。平成21年度の相談件数は5,479件。そのうち子どもの相談は4,097件で、児童虐待に関する相談は1,691件にも上りました。

子どもは自ら救いを求めることができません。また、虐待する保護者も悩んでいます。この難しい問題を解決に導くためには、周囲の人の温かいまなざしと援助が何より必要です。地域の皆さんからの連絡で、救われる子どもがいます。「おかしいなあ」と感じたら迷わず、右記のセンターへ連絡(通告)してください。

- 佐世保市では、保健師の家庭訪問や子育て支援センターなどを中心に子育て中の親子をサポートするシステムがあります。子育てや生活のストレス・悩みを一人で抱え込まずに相談しましょう。
- 子ども子育て応援センターは、子どもの虐待防止などに取り組むネットワークである「佐世保市子ども安心ネットワーク協議会」(要保護児童対策地域協議会)の事務局としての役割も担っています。

☎子ども子育て応援センター ☎25-9705

子どもの虐待SOS

- 不自然な傷やあざが多い。
- 小さな子どもを残して親がたびたび外出する。
- 長時間、外に出されている。
- いつも泣き声が絶えない。
- 暴力をふるわれている。
- お風呂に長期間入っていないようだ。
- いつも季節に合わない服を着ている。

佐世保こども・女性・障害者支援センター
万徳町10-3

☎24-5080(24時間受け付け)

佐世保市子ども子育て応援センター
高砂町5-1(中央保健福祉センター内)

☎25-9705(8:30~17:15)